

市報

松江

1

January

特集 「こどもまんなかアクション」
リレーシンポジウムin松江



小泉八雲とセツが出会ったまち 松江



2026年 令和8年 Vol.250

MATSUE

第3回

#こどもまんなか松江
子育ての日ファミリーイベント

「こどもまんなかアクション」 リーンポジウム in松江

地域で育む「こどもまんなか社会」 ～「MATSUE DREAMS 2030」を子育て世代とつなぐ～



11月19日を松江の「子育ての日」とし、まち全体で子育てを応援します

松江市では、すべてのこども・若者のみなさんが幸せに生活を送り、自分に関係することに意見を伝えることができる「#こどもまんなか松江」の実現に向けて取り組んでいます。そのひとつとして、令和7年11月9日に、島根県立大学にて、今年で3回目となる「子育ての日ファミリーイベント」を開催しました。

今回のイベントでは、こどもや子育て世代にやさしい社会づくりを進めるため、こども家庭庁が全国で実施する「こどもまんなかアクションリーンポジウム」が同時開催されました。その一部をご紹介します。

登壇者のプロフィール



こども家庭庁
成育局成育環境課長
安里賀奈子 氏

平成12年厚生省(現 厚生労働省)入省。その後、雇用均等・児童家庭局保育課、大臣官房総務課、職業能力開発局総務課、健康局総務課がん対策推進課などを経て現職。

ファシリテーター



専門分野は、日本近代文学・児童文学。絵本専門図書館「おはなしレストランライブラリー」を拠点とした絵本の読み聞かせ活動に取り組む。

島根県立大学副学長
岩田 英作 教授



てい先生

現役の保育士でありながらSNSの総フォロワー数200万人を越え幅広い分野で活躍。その具体的な育児法は斬新なアイデアにあふれ、ママパパに圧倒的に支持されている。

ゲスト



ひろみちお兄さん

NHK教育番組「おかあさんといっしょ」第10代体操のお兄さん。全国で親子体操教室、指導者研修会、講演会など教育活動に幅広く活躍中。

#こどもまんなか松江

テーマ1

こどもの「非認知能力」を育む、松江ならではの遊び場・環境とは？

岩田

実は正直なところ、『非認知能力』という言葉を理解していませんでした。例えば学校の勉強のように数字や成績で計れるようなものではない、そういう能力を総称しているという理解でよろしいでしょうか？

つい先生

総称すると、多分『生きる力』みたいな話だなと思うんです。松江みたいな場所って、非認知能力を育てるのに適している場所だと思います。なぜかと言うと、僕が先ほど言った生きる力を少し説きほぞいていくと予定調和ではない、体験経験の積み重ねっていう風に僕は思っているんです。予定調和をこどもたちに落とし込んだりすると、やっぱり松江みたいな自然豊かな場所っていうことだと思います。例えば部屋の中などでも非認知能力を伸ばすことは可能だと思いますが、やっぱり外に出ると予定調和ではないことってたくさん起きますよね。砂場で遊んでる時に水を山から流そうと思ったら全然違う方に流れていっちゃったとか。そういう予定調和ではないことが起きた時に、じゃあどうしようかって。その『どうしようか』も解決する方向で進む場合もあれば、水がこっちに流れていっちゃった、予定とは違つけど、それはそれで面白いじやんという方に行くのも僕は生きる力、楽しめる力だと思います。最近、ゲームでこどもの能力を伸ばせます、みんなの主張をよく見かけていて、もちろんそういう面もあるかもしれないですが、やっぱり外に出ないと増えないものが予定調和ではない経験の貴重さだと思います。

佐藤 非認知能力は、目に見えない、数値にも表せないということで運動面から言うと『感覚』だと思います。例えば、皆さんここまで歩いてきたと思います。小さい頃からの積み重ねで歩くという能力を勝手に身につけています。

の生き物を知ることができます。
宍道湖の北側では、国土交通省とともに『ちやぶちやぶ広場』の造成も進めています。「ちやぶちやぶ」できる親水空間を作り、浅瀬に寝そべったり水鉄砲で遊んだり魚や貝を捕まえたり、宍道湖を「遊び場」として使い倒して欲しいんです。

そうした経験を経て、松江に育ててもらつたなあという思いが培われ、自分のこどもたちで実体験を繰り返すことによって歩くという能力が勝手に身についてたり。刃物を持つ人がいる、逃げなきやつていうときの距離感もそう。いろんなところに感覚っていうものがあるのに、いろんなところで非認知能力につながってくるんじゃないかなって思いながらこどもたちに伝えていきます。日頃からの運動遊びの積み重ねで勝手に自分の体を守れる。みんなでダンゴムシやりましようって言いいながらゴロンとして起き上がりったり、その積み重ねで自然と転んだ時にコロンと背中を丸くして頭を守れるとか。そういうのも全部実体験の積み重ねの感覚の入れ方だと思うので、僕はそういう風に思いながら運動遊びの指導をしています。

岩田 遊んだ時にはたまには擦り傷とかできることで、それも経験のうちですね。

佐藤 小さい怪我は大きな怪我の予防だと思っていて、今、いきなり骨折することもがりますよね。そういうこどもは人との距離感とか感覚が身についていないから大きな怪我に繋がっていくんじゃないかなって思います。

市長 私たちの親の世代は、宍道湖や中海で泳いだり釣りをしたりして遊んでいたんですけど、こどもの頃の私にとつて宍道湖は、「遊び場」ではなく「夕日が綺麗な写真映えスポット」でした。そこで今、宍道湖を一環として、宍道湖の南岸から嫁ヶ島まで歩いて渡れるイベントを年1回開催しているんです。こどもたちは、浮き輪をつけ手綱を引つ張つて渡りながら、宍道湖の深さや湖畔

が定住やリターンを促進し、人口減少に歯止めをかけることにもつながると確信しています。また、松江を良くしたいという志やチャレンジ精神を持つ元出身者が集まれば、『松江なら新しいことにトライできる』という風土が生まれ、もともとご縁のなかつた人もこの地を目指してくれるのではないかと。これからも、こどもたちが「誇れるまち」「夢を実現できるまち」を目指して取り組んでいきます。

く、家にも学校にも居場所があつて、さらに地域にも居場所がある方がメンタルの安定にもつながっているということが見えてきてるので、幸せになる力を育む意味でも、こども家庭庁は、居場所づくりを頑張っています。従来型の居場所だと行政が建物を建てました、で終わりになっちゃうと思うんですけど、地域でこども会をやっているとか身近な公園で時々誰かがイベントをしてくれているとか。ちやぶちやぶ広場も、もしかしたら行つたら常に誰かが居て、そこでお話をできます。つてなつたら100点満点だと思います。市長がおっしゃったように、地域に愛着を持つてなつたら100点満点だと思います。で、愛着を育むためにも、その愛着を感じるような場所があると、地域への愛が育まれていくと思うので、ちやぶちやぶ広場づくりは正解の事業だなって思います。

安里 非認知能力ということにかけて言えれば、机に座つての勉強以外の体験をすること自然の中での1人の体験もあります。その体験は人と人との関係もあると思います。色々行き場所があつて居場所の数が多い方が、自己肯定感も高かつたり、将来に対する希望を持つている人の割合が高いというデータがあります。家が居場所だからいいじゃないか、学校が居場所だからいいじゃないかではな

テーマ2

子育ての「孤立」を防ぐために、地域と行政が手を取り合うには？

岩田 核家族化が進行してアパートやマンションといった集合住宅系で、隣には誰が住んでいるのかよくわからぬ中で、インター

ネットに頼つて子育てしている人がいるかも



つい先生 こういうテーマを掲げた際に、解

決策として出てきやすいのが、人との繋がりを持ちましょうっていう、こればかりになりますんすけど、僕はこれ正直半分間違つていると思つています。人が居ればいいのではなく、「共感してくれる人がいるかどうか」が重要だと思うからです。例えば、家で旦那さんが子育てしてくれるかもしれない、手伝つてくれるとか家事もやってくれるかもしれない。だけど、最近うちの子、○○なんだよねっていうママの悩みを旦那さんにぶつけた時に、共感するんじゃなくて、こうすればいいじゃんってアドバイスベースで全部返してきたりすると、結局相談したママの孤立感は目の前に人がいるにも関わらず消えてないわけですね。この子の話題は、ゴールが『人との繋がりを作りましょう』、『インター ネット上でも誰でもいいから話せる人を作りましょう』って話になるんだけど、そうではなくて、必要なのは自分に寄り添つてくれるかどうかであって、そこを書き違えてしまうと危険かなと思います。



安里 本当にその通りです。うまくいっているところは、居場所を開いてる人に思いがあるて、ちゃんとスタッフにその思いが共有されていると、安心して『共感してもらえる人がいる場所』になるんですけど。

市長

自分1人だけで解決できることは多くないので、得意な人に解決策を求めたり、行政が必要なサービスを提供することも重要です。特に松江市が、市民の皆さんとの「子育て」を応援するにあたつて力を入れているのがデジタル技術の活用です。例えば、LINEで友達になるだけで24時間365日、子育てに関する悩みに応えてくれる「まつえの子育てAーコンシェルジュ」を無料で提供しています。3千人を超える方が登録されていて、子育てに関する困りごとや悩み相談を受け付けています。

また、令和5年から保育所の入所申し込みをオンラインでも実施できるようにしました。従来は、保護者の皆さんに市役所まで足

を運んでもらい、申込用紙に第5希望まで保育所名を記入していただき、それを市役所職員が1件1件空いている保育所とマッチングするのに7日間かかるていました。それをAーが担うことで、なんと10秒でマッチングでできるようになりました。すでに約53%の保護者の方が、オンラインの「スマート申請」で入所申し込みをされています。

ただ私は、AーやDXですべての課題が解決されるとは思っていません。むしろ、松江ならではの人の温かさによって、子どもの成長や子育てを支えることが大切と考えています。それで「こども家庭センター」を設けました。昨年度から各自治体にその設置が努力義務化されましたが、松江市はその1年前、一昨年の春に設置しました。妊娠婦さん、子育て世代、こどもたちが直接相談できるワンストップ窓口です。当センターを設置する前

と比べれば対応件数が9割増え、ヤングケアラーや子どもの貧困の問題などが見つけやすくなっています。

これからも、市民の皆さんにニーズをお聞きしたうえで、日々子育て支援策のバージョンアップを図つていきたいと考えています。

佐藤

素晴らしいですね。やっぱり不安材料が減るっていうのは、そのままに住んでいる方にとつては嬉しいことでしょう。ただ孤立して生活している人は、多分頑張りすぎている人だと思ふんですね。だからそういう人たちに周囲に頼つていいんだよ、子育ても一人でしないといいんだよって声掛けをするだけで随分肩の荷も楽になると思います。

ちょっと別の話なんですが、先日、福井県に仕事で行つたら福井県つて健康寿命が結構高いんですよ。3世代で一緒に住んでるお

家が多いっていうのを聞いて。結局だから子育てもお父さん、お母さんがやるけど、おじいちゃん、おばあちゃんも手伝いながらみんなで子育てをしていくと共感してもらえて、行

うか。そういうことによって健康寿命が高いんじゃないかなと。人と人との繋がり、頼つていいんだよって頼られていいんだよってていうその関係作りつていうのを街でずっとやつていただけたらしいなと思うんですけど。

安里

今皆さんの話を聞いて、希望が持てる話を思い出しました。これはお年寄りの孤立対策に関して聞いた話なんですが、近所で挨拶している関係だけでも和らぐんですつて。ドイツは面白くて、スーパーのカゴを2種類にして、そのひとつを『おしゃべりOKかご』っていうのを作つて。おしゃべりしたい人はそれを持つて入ると、持つてる人同士もおしゃべりをするし、レジで店員も話しかけるし、ゆっくりおしゃべりしながら買い物をする。すると、その地域のお年寄りの幸福度が上がつたらいいんです。地域で声をかけ合う、簡単なことでもきっと孤立対策に効くと思います。ちゃんとDX化、Aー化して楽にできるところはそうして、でも、どっぷり関わりたい人にはちゃんと関わつて対面でできる場所がある。松江市のこのかけ合わせがとてもいいと思います。

松江市の子育てイメージキャラクター「じじみちゃん」

テーマ3



こどもたちが『夢』を抱き、 育むために、大人にできる「こと」とは? 松江市にできる「こと」とは?

岩田 こども家庭厅は、こどもの夢応援厅でもあると思うのですが。

安里 こどもの意見を聞くというか、こどもが意見を言う機会を提供するつてことが、

『こどもまんなか』の基礎ですよつていうことなんですね。それって、こどもたちが夢を見つけることにもなるかもしないし。日本は残念ながら、こどもの自殺率も高いんですけど、将来に夢があれば生きようとする選択肢も強くなってくると思うんです。自分の意見を言うことができて、誰かがそれをサポートしてくれて、実現したっていう成功体験、そういうことを幼いうちから繰り返すことで、自分の夢は叶えられるつて思うことが一番こどもにプレゼントしたいことだなっていう風に思つてます。

市長 松江市は市政を進める道標として、総合計画「MATSUE DREAMS 2030」を策定して、「夢を実現できるまち 誇れるまち松江」の創造を目標に日々取り組んでいます。

このうち「夢を実現できるまち」は、松江なら夢を叶えられる、だれでもここでチャレンジできるということ。「誇れるまち」は、魅力的な松江に生まれ育ち暮らすことに胸を張つて自慢しよう！ということなんです。

また、こども・子育て支援の目標としては、市民の皆さんのが「ここに生まれて良かつたここで育てて良かった」と感じられることを掲げて、ふるさと学習に力を入れています。松江市立小学校の3年生は、宍道湖でシジミ漁が体験できます。小学6年生には「松江城授業プロジェクト」という必修授業があって、松江城の謎や秘密に触れながら天守まで登り、松江歴史館で悠久の歴史を学びます。今年1月には初めて、中学2年生を対象とする職業体験イベント『MATSUE WORK』を開催しました。事後アンケートでは、『自分の夢が見つかった』と書いてくれた生徒もいました。

やりたいことが見つかったあと、その実現に向けて努力できる場所となるため、チャレンジを応援する仕組みも設けています。令和5年にスタートした「MATSUE 起業工コシステム」は、新しいアイデアをもつた人をみんなで後押して、事業化・ビジネス化を図る「応援団」です。今はそれが官から民に広

がると同時に、大人からこどもへと広がつているんです。例えば、社会課題を解決するアイデアを持つ高校生に対して、大人たちが助言し資金も提供して事業化をサポートしています。松江のこどもたちが考えたアイデアは、アイデアでは終わらせません。自分の夢として叶えていくのを全力で応援します。主役は、夢に向かつてチャレンジするすべての人です。行政は最初は先頭で旗を振つていますが、途中で後ろに回り込んで、最後は後ろからうしわで風を送るような存在でいたいですね。

佐藤 大人もそうだと思つてます。

市長 大人もそうだと思つてますけど、大きな目標や大きな夢を持つ時つて、そもそも自分が大事にされているつていう感覚がないと、持つものも持てない、持てるものも持てないと思うんです。その大事にされている感覚つていうのが、例えばこども基本法であつたりとか、こども家庭庁の100ヶ月ビジョンとかもそうだと思うんですが、分かりづらいんですね。具体的にどういうことなかつていうのを大人で照らし合わせた方が分かりやすいと思つてます。例えば、ここに水があります。じゃあ市長さんにそこのお水取つていただきたいと思ったとします。普通大人同士の常識的なコミュニケーションとしては、まず市長さんの様子を観察して取れそうだなつて判断したらそこで初めて「ちょっとすいません。そこのお水取つていただけますか？」となります。相手がこどもになつた途端に、大人つてそれができないことが多々あつて。例えば、もうすぐお昼ご飯なのでそろそろこどもに片付けしてほしいなつて思つたとき。こどもの様子を見ずに時計だけ見て、「もうご飯だから片付けして」つて始まるんですね。それでも片付けをしないと、「ねえさつき言つたよね。もういい加減にしなさいよ。パパが帰つてきたら怒つてもららうからね」とか。僕たちは当たり前にこうもにそれをやつてます。そんな言わ方をして、こどもが片付けたいと思うのかつていう話なんですよね。そういうのつてまさに大事にされていない感覺が大人の無意識の行動によつて植え付けられてくる可能性があるので壮大なこども基本法とか、こどもの意見を聞きましよう、みた

かなつていうところを目指しながら、自分の夢と重ねて、親子体操つていうものは本当にいいんだよ、ということを世の中に広めたいみたいと思って活動しています。こどもたちに夢を持たせる時つて、なんか目の前の夢もそうなんですが、地球儀を見るともつと夢が広がるよつていう風に言われて、幅広い大きな夢をもつともつと見せられるような大人になりたいなと思つてます。

安里 こども家庭庁が『こどもまんなか』で謳つてることとは、大人にやつてているのと同じ対応をこどもともやろうよつてことなんですね。幼いこどもでも声を聴くことが大切です。大人とこどもが対等に声を聴き、会話をすること。踏み出せば、夢の実現は間違いなくあります。皆さんにご意見をいただきながら、松江市がより魅力的な『夢を実現できるまち』になるように、これから対してもそうやって接触しますよね。だから『こどもまんなか』の概念つて、きっと日本を良くする方に変えるなつて思つています。

市長 重要なのは『実行すること』ですね。目標を立てるだけじゃなくて、一步を踏み出すこと。踏み出せば、夢の実現は間違いなくあります。皆さんにご意見をいただきながら、松江市がより魅力的な『夢を実現できるまち』になるように、これからも力を尽くしてまいります。



佐藤

夢を持つこと 자체が自分自身を奮い立たせることにもなつてきます。僕も親子体操を通じて世の中を健康にしていきたいです。

市長 重要なのは『実行すること』ですね。目標を立てるだけじゃなくて、一步を踏み出すこと。踏み出せば、夢の実現は間違いなくあります。皆さんにご意見をいただきながら、松江市がより魅力的な『夢を実現できるまち』になるように、これからも力を尽くしてまいります。

まつえこども
子育てサイト



まつえの子育て
AIコンシェルジュ



こども家庭庁
100ヶ月ビジョン

